（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年４月 28 日

県立川崎北高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①各教科･科目及び総合的な探究の時間の学習到達目標を設定し、学力調査等で到達度の検証を行う。併せて、生徒の学習意欲や探究心を高める組織的な授業改善を推進し、学習指導要領(平成 30 年告示)を踏まえた教育課程の編成に取り組む。 ②全教科で授業のユニバーサルデザイン化を図る。	①主体的・対話的で深い学びを実現し、生徒が共に学び、考えを深め、探究していこうとする意欲を育む。 ②生徒に必要な合理的配慮・授業のユニバーサルデザイン化を進める。また、学習評価を生かした教育活動を行う。	①･授業の中で｢問い｣を精選する。 ･TTの授業研究を進める。 ･｢生徒による授業評価｣の向上目標ポイントを教科ごとに定める。 ･授業研究部会が中心となり、授業力向上のための研修テーマを定め、授業のねらいを示した授業計画書を作成し、効果的な授業観察･授業研修を実践する。 ②面談等をとおして生徒の状況を把握し、リフレクション(内省)を意識的に働かせ授業･指導改善につなげる。	①･｢生徒による授業評価｣の項目８(授業でわからないことがあったら、自分で聞いたり、調べたりした)について、生徒の回答が｢かなり当てはまる｣と｢ほぼ当てはまる｣を合わせて85％を上回り、かつ、1回目より2回目が改善した数値となったか。 ･授業観察や授業見学･授業力向上研修により、教職員が授業力向上につながった点についてアンケート調査し、集計・考察の結果から、授業改善の成果があったと検証できたか。 ②生徒の学習評価の推移を考察する。					
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①基本的な生活習慣を確立し、生徒同士が主体的にかかわり合い相互理解を深めるインクルーシブな学校づくりに取り組む。 ②部活動･生徒会活動や学校行事の質を一層高め、生徒の主体的な活動を促進する。	①基本的なルールやマナーを守り、生徒自身が安全･安心な学校づくりに寄与する態度を育む。 ②･創立 50 周年という節目に生徒主体の学校行事を企画・運営する。 ･学校行事や部活動等の様々な場面で、生徒の主体的な活動を支援する。 ･校外施設を利用して、学校行事や部活動を行う。	①遅刻指導や交通安全指導の継続や専門家と連携した教育相談による支援等を活用し、生徒が居心地よいと感じる学習環境づくりに取り組む。 ･昨年度新たに確立しなおした教育相談体制に基づき、SC や SSW と連携した適切な相談業務･支援に取り組む。 ②･新たな行事のあり方を模索し、生徒の主体的な取組や運営態度の育成を図る。 ･｢部活動ハンドブック｣に基づいた指導を行い、部活動の加入率を上げる。	①･前年度より遅刻指導の対象となる生徒の延べ人数を減らすことができたか。 ･交通安全に係る苦情件数を前年度より減らすことができたか。 ･SC や SSW と連携し、個々の生徒の支援や情報の共有を図ることができたか。 ②･生徒の意識に残る学校行事を行うことができたか。 ･歌やロゴづくりを実現できたか。 ･北斗祭の生徒対象アンケートで、生徒が主体的に取り組むことができたと分析できたか。 ･5月時点での部活動加入率が60％を超えたか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（　月　日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒の社会的・職業的な自立へ向けたキャリア教育を充実させ、生徒一人ひとりの個の力を生かした進路実現・自己実現の支援に取り組む。 ②成年年齢が引き下げられることを踏まえ、シチズンシップ教育の充実を図る。	①・総合的な探究の時間や進路ガイダンス、進路講演会等の振り返りの時間を確保し、身につけた資質や能力を進路活動・進路実現につなげる支援を行う。 ・卒業生に対するアフターフォロー体制を整える。 ②消費者教育・政治参加教育の充実を図る。	①・「ワークシート」や「振り返りシート」の点検や面談等をとおして、生徒の進路実現に向けた取り組み意欲の向上を図る。 ・卒業後のアフターフォロー体制に係る担当者を決め、卒業生へのフォローや在校生との情報共有を行う。 ②時事問題に照らした消費者教育・政治参加教育を実施する。	①・進路実現・自己実現への支援上のツールとして、「ワークシート」や「振り返りシート」を活用することができたか。 ・卒業生や在校生からの相談に対応することができたか。 ・在校生及びその保護者に情報を伝えることができたか。 ②SNS の問題や政治・社会参画の視点から生徒向けの講演会を実施することができたか。					
4	地域等との協働	①地域との様々な協働を推進し、地域唯一の高等学校として、共に発展する学校づくりを進める。 ②インクルーシブな学校づくりのために、特別支援学校や地域の支援施設や企業と連携する。	①地域の教育資源を活用したり、本校の施設を開放したりすることで地域との連携を図る。 ②インクルーシブな学校づくりのために地域資源を活用する。	①地域と連携した防災講話・防災訓練等を実施する。 ②・分教室との連携や地域への訪問を行う。 ・インクルーシブ教育の一環として職場体験実習を計画する。	①社会状況や過去の災害経験等を踏まえた訓練等を地域と連携して行うことができたか。 ②夏季休業中等の職場体験実習に参加する生徒が延べ 50 人を超えたか。					
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な教育環境の整備と教育活動の充実・改善に努め、ユニバーサルデザインを取り入れたより快適な学習環境づくりを進める。 ②教職員が生徒と向き合う時間を確保する。また、学校運営についての情報発信に努め、信頼と期待に応える学校づくりに取り組む。	①清掃活動を充実させ、校内美化・安全管理を踏まえた学習環境の整備に取り組む。 ②生徒への面談や補習、部活動指導、進路支援、教育相談等に係る時間を確保する。	①学習環境のフロントゼロやごみの分別収集等を徹底し、衛生的かつ安全に利用しやすい学級運営を行う。 ②時間割作成を工夫する等を含め、教職員のスムーズな会議運営、業務進行を進めることで生徒と向き合う時間を確保する。	①清掃用具や足ふきマットを備え、活用できたか。 ②・時間割の中に会議を割り当てることができたか。 ・学年会議やグループ会議、企画会議、職員会議において、目的と運用に係る明確性の高い会議資料を作成し、時間を短縮した会議運営を行うことができたか。					